

新約聖書 ヨハネによる福音書 20章 19節—31節 (新共同訳)

¹⁹ その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁰ そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。²¹ イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」²² そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。²³ だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

²⁴ 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。²⁵ そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」²⁶ さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁷ それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」²⁸ トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。²⁹ イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

³⁰ このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。³¹ これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「ゆるす」

本日は、復活節第2主日です。復活節とは、十字架上で死んだイエス・キリストの復活を祝う期間です。復活節は、イースターと呼ばれる復活祭(祝日)から、50日目の日曜日の、弟子たちの上に聖霊が降(くだ)り教会が誕生した日として祝われるペンテコステ(聖霊降臨日)まで続きます。

イエス・キリストが死から復活した喜びを祝う日がイースターです。

イースターでは、卵がよく登場します。"新たな生命を生み出す" という意味がある卵は、死という殻を破ったイエス・キリストの復活を象徴するシンボルです。キリスト教において、イースターはキリストの復活を祝う、極めて大切な日です。キリスト教圏では、春の訪れと共にキリストの復活を盛大に祝います。

十字架上で死んだ主イエス・キリストの復活の奇跡を目の当たりにした弟子たちは、喜びに沸き立ちました。これがイースター（復活祭）につながったといわれます。

本日の福音書には、復活した主イエスを見て、弟子たちが喜びにあふれた場面が記されています。

イエスが十字架上で殺されたあと、イエスの弟子たちはある家に集まり、家の戸に鍵をかけてひっそりと身を隠していました。それは、イエスを迫害していたユダヤの人々が、イエスの弟子である自分たちを迫害することへの恐れからでした。

そんな不安と恐怖の中にいた弟子たちの前に、死んだはずのイエスが現れて、彼らにこう言いました。「あなたがたに平和があるように」。そしてイエスは、十字架にかけられたときの傷跡が残る手とわき腹とを彼らに見せたのです。

「あなたがたに平和があるように」という言葉は、もともとは日常の挨拶に用いる言葉でした。ですがイエスが弟子たちに向けて発したこの言葉には、単なる挨拶を越えた霊的な力がありました。弟子たちはイエスのこの言葉を聞いて、心が澄み渡り、平安と喜びを得たことでしょう。

復活の主イエスは、単に弟子たちの前に現れただけでなく、聖霊の力をもって彼らの恐れと悲しみを取り去り、彼らの心を大きな喜びで満たしたのです。

イエスは重ねて「あなたがたに平和があるように」と言い、こう続けました。「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」（ヨハネ 20:21）。

これまでイエスが地上で行ってきたことを、今度は弟子たちが代わりにおこなっていくことになるということです。弟子たちは、イエスによって選び出され、イエスによってこの世へと遣わされるのです。イエスが復活したことを祝うイースターと、イエスが復活したのちに弟子たちの上に聖霊が降（くだ）り教会が誕生した日として祝われるペンテコステ（聖霊降臨祭）は、密接につながっています。

イースターは新しい歴史の始まりの日です。

イエスは弟子たちに息を吹きかけながら「聖霊を受けなさい」と言いました（ヨハネ 20:22）。そして弱い人間である弟子たちが、この使命を果たすことができるように、「聖霊」という神からの力が、イエスを通して弟子たちに与えられます。

「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」（ヨハネ 20:23）。

これは、赦（ゆる）すか赦さないかを決めてよい権限を弟子たちに与えるというよりも、ひとえに私たち人間への「人を赦（ゆる）せ」というイエス・キリストからのメッセージなのだと思います。

その人を赦（ゆる）さなければ、その人の罪は消えないまま残り続ける、だから、人を赦しなさい、ということなのでしょう。イエスは私たちに、他者への赦しと和解への希望を委ねたのです。

人を赦すこと。これは、私たち人間が心の平安と喜びをもって生きていくための、最も重要なメッセージと言えるのではないのでしょうか。

この時、十二弟子の一人であったトマスは、どういうわけかその場に居合わせませんでした。イエスが復活して現れたと後から聞かされたトマスは、自分の目でそれを見て、自分の手で触れて確かめるまでは決して信じないと主張しました。

このトマスは、疑い深い人物の代表と考えられています。ですがそのトマスも、それから一週間後の日曜日に、復活のイエスの到来を目の当たりにし、イエスから語りかけられることを通して「わたしの主、わたしの神よ」と信仰を告白するに至ります（ヨハネ 20:28）。

そんなトマスに対してイエスは「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」と言いました（ヨハネ 20:29）。

この世界には、人間の目や知恵によって見えるもの、分かるものと、そうでないものがあります。人間の知りうることは、大海の中のひとしづくに過ぎません。限りある人間の知恵と洞察力をもって、神の世界、神の意志を知りつくそうとすることには限界があるでしょう。神の前に、人間は基本的に知らない者、見えない者であることを知ることこそが、「本当に知る」ということなのではないのでしょうか。

イエスはこう言いました。

「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」（ヨハネ 20:29）。

この言葉は、あらゆることに言えることだと思います。

あなたが、人生は、つらいことや大変なことばかりだと失望している時は、「そのうち絶対にいいことが起きる」、「予想もしていなかったような素晴らしいことが起きる」と信じてみてください。

主イエス・キリストは、いつもあなたと共にいます。

お祈りをいたします。

全能の神様。私たちは、自分の受け入れることができる形であなたの救いが到来することを望みますが、あなたは私たちの思いを超え、聖霊と、まことの平安を与えてくださいます。私たちを、見ないのに信じる人にしてください。救い主 御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

新約聖書 使徒言行録 5章 27節—32節（新共同訳）

²⁷彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。²⁸「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」²⁹ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。³⁰わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。³¹神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。³²わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」

新約聖書 ヨハネの黙示録 1章 4節—8節（新共同訳）

^{4,5}ヨハネからアジア州にある七つの教会へ。今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの霊から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。

わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放して下さった方に、⁶わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司として下さった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。

⁷見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る、／ことに、彼を突き刺した者どもは。地上の諸民族は皆、彼のために嘆き悲しむ。然り、アーメン。

⁸神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

教会讃美歌 298番「心まよいゆくをやめて」、239番「ひととなりたる」、238番「いのちのかて」、375番「神の息よ」。